令和5年度　学校経営方針

丹波市立黒井小学校

≪基本となる考え方≫
1　国の示す、第4期教育振興基本計画。(2023 年度～2027 年度)及び兵庫県教育委員会の第3期「ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」(2019 年度～2023 年度)及び「指導の重点」、第 2 次丹波市教育振興基本計画(2020 年度～2025 年度)及び「令和5年度丹波市の教育～実施計画～」を基軸に据える。
2　人権尊重の精神を大切にし、安全で安心して学べる学校となるよう自己肯定感や自己有用感を学校の全教育課程の中で育成する。また、個別最適な学び(指導の個別化と学習の個性化)を推進する。
3　キャリア教育(基礎的・汎用的能力の育成)を軸に、夢や目標を持ち、学び続ける児童を育成する。そのためにコミュニティ・スクールを活用し「たんばふるさと学」等を通して、地域のよさに触れさせるとともに、確かな学力を保障し、未来の創り手として活躍できる、たんばを担う心身ともに健康で、自立した人づくりを推進する。

≪学校教育目標≫

自分に自信をもち、地域に誇りをもつ心豊かな子の育成
～　学校・家庭・地域の連携による人づくり　～

≪学校教育目標設定にあたって≫
これから社会で生きていく子どもたちは、①多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができることや②自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとすること、③様々な課題を発見し、適切な計画を立ててその課題を人と協力して解決することができること、④自らが果たすべき様々な立場や役割を踏まえて人のために行動することなどが求められる。　これらの力を発達段階に応じて身につけさせ、自身の成長を実感させていく教育活動を実践していく。

≪めざす児童像≫

[自信をもつ・自ら学ぶ]課題を見つけ、学び続ける
課題対応・自己理解・管理能力②③

[地域に誇りを持つ]人とつながり地域を学ぶ
人間関係形成・社会形成能力①②

[心豊かにたくましく生きる]自他の命や人権を大切にする　キャリアプランニング能力③④

≪令和5年度の重点課題≫

地域・家庭との協働
①学校運営協議会の推進
・学校支援Cとの連携・協働活動の充実
※挨拶運動の充実
②家庭学習の充実
・タブレット PC の家庭での活用・学習課題の個別化と家庭との連接
・主体的な学習の推進
③学校情報の公開
・保護者メールの活用・ホームページの充実・学校・学年だより等の充実
・学校評価と評価委員会の活用
④業務改善の推進
・超過勤務の縮減と会議時間の短縮
・SSS の有効活用と校務の整理

学力の育成
①「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善(国語科を中心として)
・主体性を育む授業改善・対話的な学びの充実・言葉を大切にした学びの充実
②情報活用能力の向上
・ICTによる個別最適化・プログラミング教育の進推・情報モラル教育の充実
③外国語・外国語活動の推進
・OJT の充実・ALT や地域人材の活用
・ICTの活用・海外の学校との交流
④キャリア学の推進
・ふるさと教育の推進・キャリアノートの活用・基礎的汎用的能力の育成
・コミスクの活用

豊かなこころの育成
①不登校・いじめの未然防止
・不登校傾向児童の早期把握と対応・関係機関との連携・校内での情報共有
②いじめ・暴力ゼロ
・人権意識の醸成・いじめアンケートの活用・地域・家庭との連携・異年齢集団活動の推進
③児童理解の推進
・視点を共有し、特性や個性を理解することの推進・児童虐待やDVへの対応
④人権意識の醸成
・主体的な活動の推進・地域・家庭との連携・関係機関との連携・多様性の理解と多文化サポーターの活用

健やかな体と体力の向上
①体力・運動能力の向上
・体力運動能力調査結果の活用・個別の課題に応じた運動能力の向上
②健康管理
・新興感染症等疾病予防対策の徹底
・学習時の正しい姿勢の定着
・性教育の推進
③防災・安全教育の充実
・「備える」活動の推進・「伝える」「活かす」活動の充実
・各種訓練の実施
④食育の推進
・学校給食指導の充実・学校栄養教諭との連携・地域人材の活用

①中学校・認定こども園との連携…適切な就学指導等　②社会教育施設の活用…市内各施設等　③安全な教育環境の整備・充実…登下校の安全
④業務改善の推進…SSS 活用(市内全校配置)　⑤支援にかかる関係機関(丹波市・福祉機関・医療機関等)との連携…虐待や困窮家庭対応

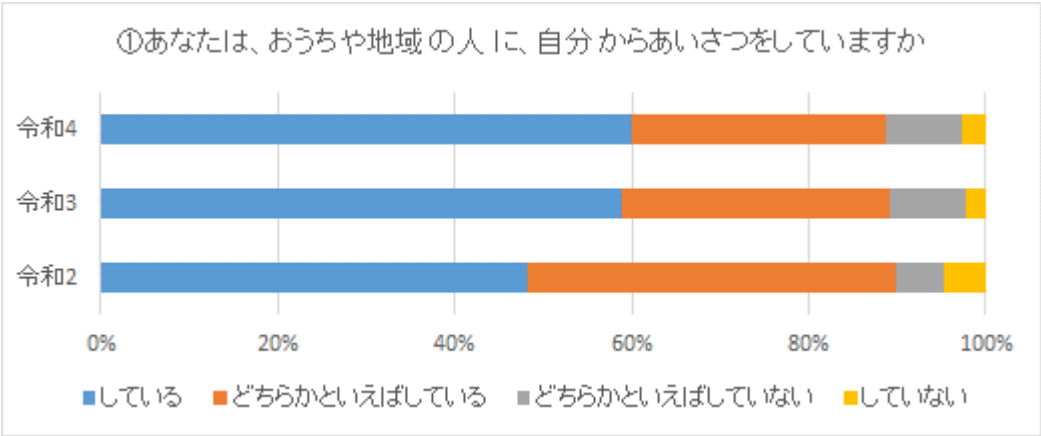
令和５年度学校経営方針について

丹波市立黒井小学校

学校教育目標
「自分に自信をもち、地域に誇りをもつ心豊かな子の育成」
　～　学校・家庭・地域の連携による人づくり　～

学校教育目標設定にあたっての基本的な考え方
　これから社会で生きていく子どもたちは、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができることや自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとすること、様々な課題を発見し、適切な計画を立ててその課題を人と協力して解決することができること、自らが果たすべき様々な立場や役割を踏まえて人のために行動することなどが求められる。
　上記内容を観点ごとにまとめると
・人間関係形成・社会形成能力
　①多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる。
・自己理解・自己管理能力
　②自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする。
・課題対応能力
　③様々な課題を発見し、適切な計画を立ててその課題を人と協力して解決することができる。
・キャリアプランニング能力
　④自らが果たすべき様々な立場や役割を踏まえて人のために行動する。

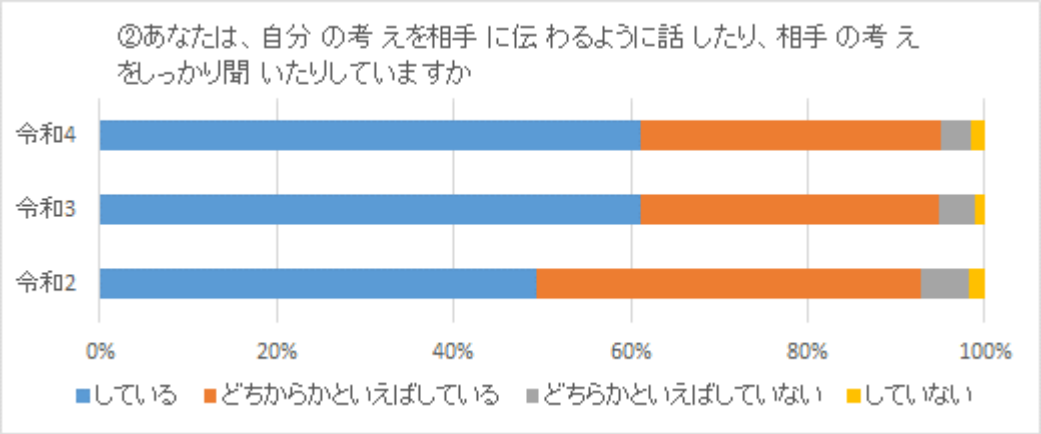
（１）人間関係形成・社会形成能力
　人間関係形成・社会形成能力は、社会とのかかわりの中で生活し、仕事をしていく上で基礎となる能力である。多様な他者を認めつつ、他者と協働していく力が必要である。その意味で、授業において多くの友達と共に、協力して一つのものを作り上げることは児童にとって有用な経験となる。特に高学年の児童にとっては、社会性が一層発達するときでもあり、友達とのコミュニケーションを通して、友達のよさを理解する力（認める力）、他者に働きかける力などを高めていきたい。



※令和２・３・４年度児童アンケートより

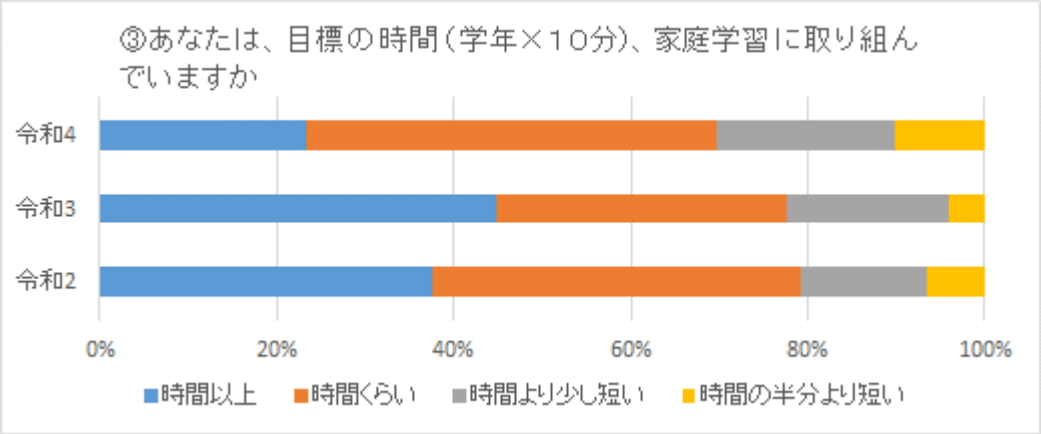
（２）自己理解・自己管理能力

自己理解・自己管理能力は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。児童自らの意欲的な学習は、児童の主体的な問題解決の活動となり、これは自己理解・自己管理能力を養うための機会となりうる。現在のように変化の激しい社会にあっては、多様な他者との協力や協働が強く求められている。そこでは、自らの思考や感情を律する力や自らを律する力がますます重要となっている。自己の役割の大切さを理解し、行動することはキャリア形成や人間関係形成における基盤となることがらでもある。



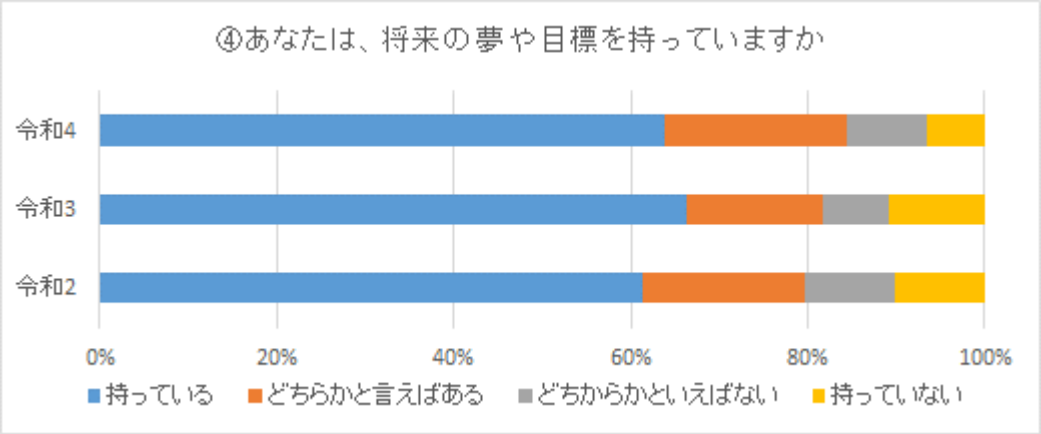
（３）課題対応能力

課題対応能力は、様々な課題を自ら発見し、適切な計画を立ててその課題を処理して解決することができる力である。このことは、今回の学習指導要領の改訂においても重要視されていることである。学習過程を明確化することにより、自ら学び、課題を解決する能力の育成を重視するとしている。単に知識や技術を学ぶだけでなく、体験的な学習を通して学んだことを実際の生活の中で生かしたり、様々なきまりや法則を自ら発見したりする学習は特に重要である。



（４）キャリアプランニング能力

キャリアプランニング能力は、子どもたちにとって身近にいて自分たちを支えてくれている人たちの存在に気付かせ、そのような人たちの活動の一端を理解させることは、社会が人によって支えられているという事実を認識させるための重要な契機となる。このような学習を通して、子どもたち自身も将来そうした社会の一員となる存在であることを、実感を伴って理解させる（人の役に立つことの重要性）ことが重要である。キャリアプランニング能力は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえることが重要である。



（５）非認知スキルと学力

従来の能力（学力）は「認知能力」と呼ばれ、目に見えない（測定しづらい）人間関係形成や自己管理能力、課題対応能力などは、「非認知能力」と呼ばれている。昨今、各機関がこの能力に注目し、提唱しはじめた。しかし統一的に整理されたものは今のところ存在していない。

平成 29 年度「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」（国立大学法人お茶の水女子大学）では、子どもたちの学力とこの非認知スキルに着目した分析がされている。分析の中で「「非認知スキル」があるから学力が高いのか、その逆なのかは定かではない（おそらく相互に影響しあっているのではないか）が、ものごとを最後までやり遂げる姿勢や、異なる考えをもつ他者とコミュニケーションする能力は子供たちのレジリエンスと関連している。」とされている。ここでの「非認知スキル」は、８つの項目で整理されている。

①ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
②難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。
③自分には、よいところがあると思う。
④友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。
⑤友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
⑥友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる。
⑦自分とは異なる意見を生かしたり、折り合いをつけたりして話合い意見をまとめている。
⑧学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。
「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」より

黒井小学校では、上記の８項目を４項目に絞り、令和４年度の丹波市学習定着度調査とあわせて調査した。

㋐ひとの考えをよく聞き、自分の考えを発表できる。④⑤と関連…人間関係形成
㋑初めてのことや苦手な事にすすんで挑戦できる。②と関連…自己管理能力
㋒自主学習を続けたり、授業に最後まで集中したりして取り組める。①と関連…課題対応能力
㋓当番活動や係活動、掃除などみんなのために仕事ができる。⑧と関連…社会性・公共心

今回の学力調査においても児童質問紙調査の項目から上記のスキルに該当するもの等を選び学力の状況とあわせて分析した。

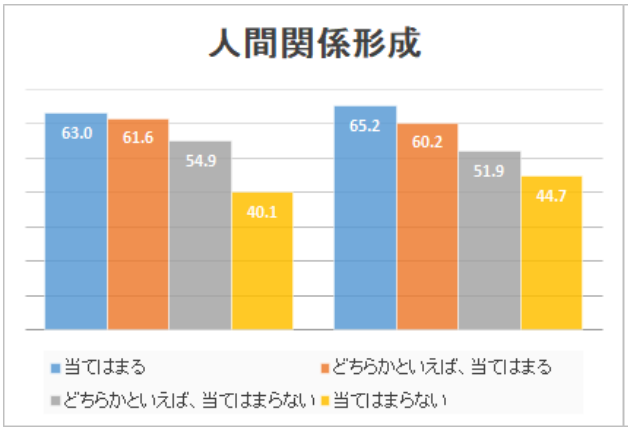
人間関係形成では、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」（左グラフ）「資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」（右グラフ）の２つの質問について正答率との関係を考えた。

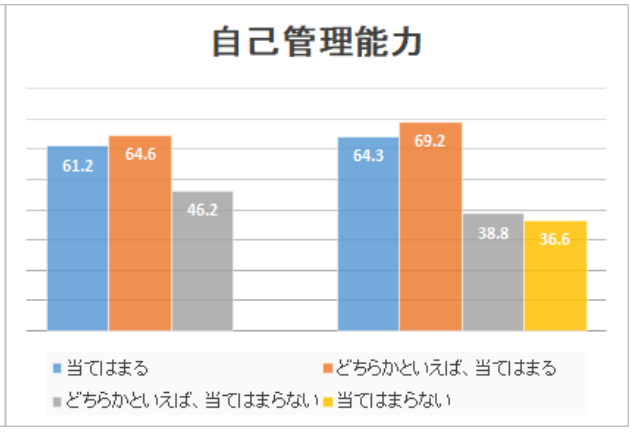
自己管理能力では、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」（左グラ

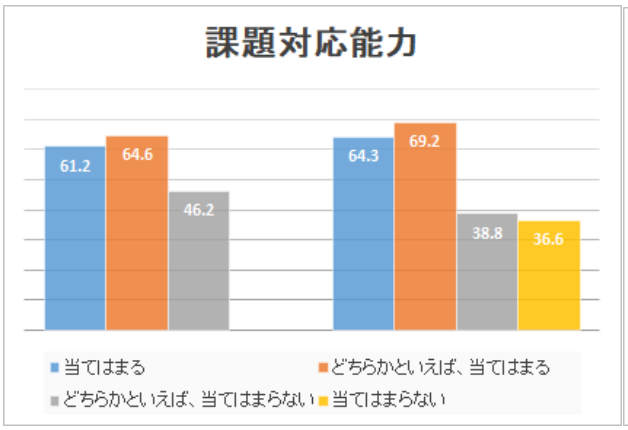
フ）「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」（右グラフ）の２つの質問について正答率との関係を考えた。

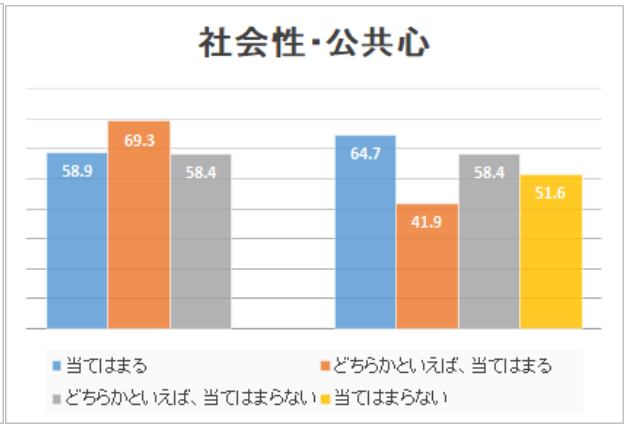
課題対応能力では、「自分でやると決めたことは、やとり遂げるようにしている」（左グラフ）「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」（右グラフ）の２つの質問について正答率との関係を考えた。

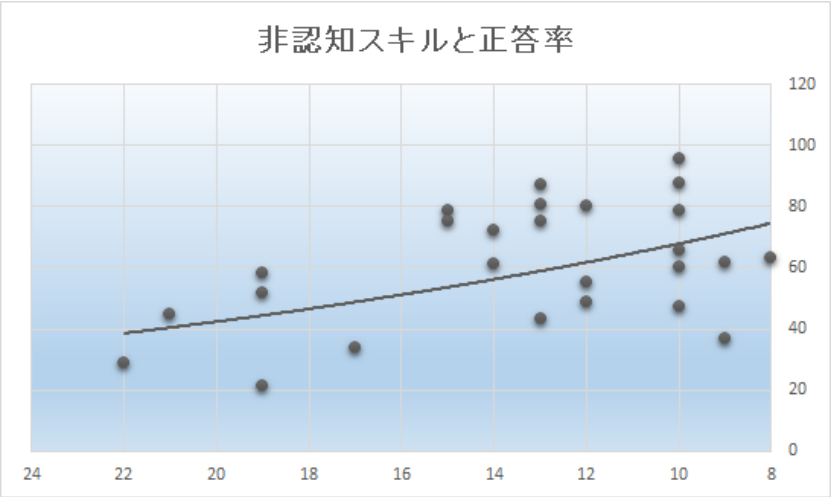
社会性・公共心については、「人が困っているときは、進んで助けている」（左グラフ）「人の役に立つ人間になりたいと思う」（右グラフ）の２つの質問について正答率との関係を考えた。









何れの項目においても「できる」「まあできる」の肯定的な回答をしている児童の正答率が高いことが分かる。特に令和４年度の調査からも『人間関係形成』について学力との相関が高いことが伺えた。

８つの質問を得点化し、学力調査の正答率との相関を調べた。近似曲線が示すように非認知スキルの高い児童ほど正答率が高くなっている。